

日常異変 コロナの私(4)

こんなはずじゃなかったけど、一人じゃなくてよかった

飲食業と宿泊業を営む私にとって、オリンピック開催予定の2020年への期待は大きかった。しかし、まさか一瞬でこうなるとは思いもよらなかった。人間は自然に勝てないと再確認した。

経営しているアパートメントホテルはたった15部屋だが、浅草の近くであり外国人旅行者専用の感じで繁盛していた。それが2月中旬からキャンセルが入り始め、3月以降の宿泊予約は一気になくなった。キャンセルは全て無料に対応しなければならない。スタッフが毎日泣きそうな声で報告、私も連日眠れなかった。毎月約200万円の家賃があるので、売上はゼロになると、もう終わりだ。幸い、オーナーが家賃支払いの猶予を認めてくれた。が、借金が増える一方。従業員の雇用を維持しているが、このままだと持てるのは6月末まで。先の見えない中、廃業するかどうかの判断が求められる。



台東区日本堤2-15-4のホテル

巢鴨地蔵通り商店街で妻と経営している中華料理店がある。3月中旬から商店街に来るお客さんが減っていると実感した。地元の常連客のおかげでなんとか経営を維持できた。常連客も“頑張ってるね”から“耐えてね”と話す内容が変わってきた。スタッフとお客さんに安心できる環境を提供するために、店内の消毒、営業時の換気などいろいろ工夫した。少しでも売上を上げるために、自ら配達に行ったり、テイクアウトを安くしたりと方法を考えた。しかし4月10日の小池都知事の記者会見で即時休業を決断した。

休業している間に、諦めなかった。思い付いたのは、冷凍餃子の店頭販売と通販だった。特に通販はずっとやりたかったが、なかなか実行に踏み入れなかった。



巢鴨地蔵通りの中華料理店「清緑園」

“危機は転機、転機は勝機”、ユニ・チャームに勤めていた時に肝に銘じたこの言葉、ここで事業内容を変える転機だと思った。焼餃子をメイン商品として通販を始めたが、馬場先生、峯島さんの助言で通販のジャンルで売るのは水餃子に変えた。何度も馬場先生と峯島さんとオンラインミーティングをしていく中、どのようにお客さんにアプローチするか、値段設定、包装や配送、食べ方など全てアドバイスをいただいて、水餃子通販販売をほぼ1週間で確立した。

「巢鴨餃子（商標出願 No. 2020-040491）」というブランドで水餃子の通販や店頭販売に力を入れる。（巢鴨餃子 URL : <http://www.sugamo-gyouza.jp>）通販事業が大きくなることを期待している。



妻と二人で水餃子通販に活路を求めています

最後に、毎日暗いニュースを聞いても、暗い気持ちにならず、新型コロナウイルスを経験してもよかったと思えるように、今のうちに様々な方法を考えて乗り越えて行きます。こんなはずじゃなかったけど、一人じゃなくてよかった。

福沢史可